

中・高生が職場体験

学校が夏休みに入り、職場体験として近隣の高校や中学の生徒たちが城西病院を訪れ、看護師の体験をしました。生徒たちは体験に先立ち、病院内のさまざまな場所や施設を見学し、ふだん訪れることのない手術室や見ることのない最新鋭の機材を見て、驚いていました。

生徒たちは2日間にわたり、看護補助業務や患者さんの日常生活援助に活躍。多くの生徒は「医療関係の仕事を目指したい」と話していました。

この夏、城西病院で職業体験学習を行ったのは、鬼怒商業高校2年の小泉晴香さん、内田優華さん、飯島瑞季さん、下館西中2年の長塚玲奈さん、相澤



手術室で手術台を体験する鬼怒商業高校の生徒たち

実習に先立ち、血圧測定や聴診器の体験、血糖値の測定なども実際に行いました。3人は「思った以上にいろんな作業があり、大変な仕事と思いました」といい、「医療に関心を持った。助産師になりたい」という生徒さんもいました。



救急処置室で、気管挿管器具などの説明を受ける結城中の生徒たち

莉子さん、結城中2年の管麗依奈さん、塚田朱音さんの7人です。

高校生の3人は、内科病棟で実習を行いました。

下館西中の2人は外科病棟で実習。看護師の手伝いや昼食の配膳などを手伝いました。「立ちっぱなしで疲れました」「思った以上に大変でした」と話していましたが、「看護師になりたい」と

夏休みの貴重な経験

看護師になりたい



病院事務に興味を持ち、窓口を見学する鬼怒商の生徒たち

2人。結城中の2人は掃除や患者さんとのコミュニケーション、配膳などをお手伝い。「看護師さんの仕事は大変で、患者さんへの対応がすごいと思いました」と感想を話していました。

平成26年8月1日



機材浴などの設備を見る結城中の生徒たち



さまざまな検査機器の説明を受ける下館西中の生徒たち



MRIについて、詳しい説明を受ける下館西中の生徒たち